



総合教育センターだより

Connected

センターマスコット センタ君



平成23年8月15日(月)
第29号(通算第112号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266

気になる子どもの 理解と対応

まもなく2学期が始まります。通常の学級に見られる読み書きが困難な子どもについて、これから2回にわたって、どのような支援が必要かを考えます。



－読み書きが困難な子どもへの支援－①

Q 小学校高学年のCさんですが、はじめて読む文章はたどたどしい拾い読み(逐次読み)になります。指で一文字ずつおさえて読んだりしていることが多いです。練習するとよくなりますが、今度は読み飛ばしや言葉を変えて読んでしまう勝手読みになります。

板書のノートへの書き写しは、2～3文字ずつです。大変時間がかかります。どうしたらよいでしょう。

見立て

個々の子どもの特性を見極めることが大切です。読み書きの様子を詳しく観察する必要があります。

Cさんの場合、眼球運動にも問題がありそうです。視力検査では問題がなくても、文字を目で追うことや視線の移動が困難な場合があります。パッと見て、文字をひとかたまりで見て覚える力が弱い上に、文字を写し終えて再度黒板に視線を戻したとき、どこに書いてあったかわからなくなるので、よけい時間がかかります。

具体的な支援の例

「逐次読み」や「勝手読み」になってしまう理由は2つあります。一つは単語や文節が「ひとまとまり」でつかめないからです。もう一つは意味のわからない言葉が多すぎるからです。そのため、「区切りがわかるように支援すること」と「わかる言葉を増やすこと」が大切です。

まずは、文にスラッシュ(/)を入れて、まとまりで読む練習をしたり、読めない漢字にふりがなをふったりして、読むことのできる環境を整えてみます。また、日常生活でよく使う漢字を選び、その漢字の持つ意味を説明したり、生活体験につなげたりしながら定着させる支援が考えられます。

指導のヒント

○スモールステップでていねいに繰り返し学習します。

スモールステップとは、ちょっとがんばればできそうな、手の届きそうなことを目標にするやり方のことです。つまり課題を細かく分けて一つずつクリアできるように手助けするのがスモールステップの支援の考え方です。

○書き言葉になじむことが必要です。

「書き言葉」とは、「助詞が入り主語と述語が揃っている文体」です。丁寧に指導する必要がありますが、多く書かせるだけでは逆効果です。

はじめに教科書等をゆっくりとていねいに音読して読み聞かせをします。文節で区切りながら大人が読み、続いて子どもに復唱させます。このとき、文を目や指で追わせるようにしてもよいでしょう。ここでのねらいは、書き言葉の文体になじむこと、耳と口を鍛えることです。

次に短い文を聴写(聞き書き)させます。国語の教科書などをゆっくりと文節で区切りながら読み上げ、そのとおりに書かせます。このとき、必ずしも漢字で書く必要はありません。

それができて初めて視写の学習に入ります。はじめのうちは、ゆっくりでよいから正確に写すこと、ていねいに書くことを指示します。その際、子どもによってはかなりの負担になるということを十分にふまえて指導しましょう。

音読

聴写

視写



※詳しいことは特別支援教育ガイドブック「読める!書ける!~すべての子どもが楽に読み書きを学ぶために~」(<http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/tokubetu/22-kenkyu/>)を御覧ください。ダウンロードもできます。

講座報告



6月24日（金）実施

「化石から学ぶ科学的なものの見方・考え方」講座

京都大学総合博物館にて、「三葉虫を調べよう」「宇宙箱舟ワークショップ」「授業で活かす科学ニュースの見方」の3つの講義が行われました。

7月8日（金）実施

特別支援教育「高等学校の生徒支援」講座

在学中から卒業後の進路に結びつく支援について、学校の組織的対応を中心に学びました。また、京都少年鑑別所の定本ゆきこ氏の講演からは、青年期に特有の様々な問題が発達障害のある生徒ではさらに大きな問題に発展することについて、その理解と対応を学びました。

研究協議では、高等学校特有の進級や進路に関する話題が多く出され、他機関との連携を積極的に行っている事例や個別の教育支援計画を策定して支援の連携を行っているという事例が発表されました。



- 観察し、仮説を立て、自分なりの根拠を説明することは大切だと感じた。
- 自分の推理が正しかったときの喜びを児童に感じさせたい。
- ニュースに出る数字の裏側にある本質を理解した上で検証する必要があるとわかった。
『化石から学ぶ科学的なものの見方・考え方』講座

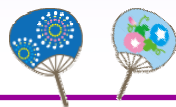


東日本大震災に係る教育活動支援報告（その3）

私は福島県の新地町を中心とする海岸地域の学校支援に参加しました。このあたりは津波の被害を受け仮設住宅に住んでいる人達もいます。

学校では、これまでがんばってきた先生や子どもたちの間でストレスがたまってきており、心のケアが課題となっています。大人も子どもも辛い心の中をはき出したい思い、聴いてほしい思いがあるようです。その思いは仮設住宅の人たちも同じです。

仮設住宅では、津波で夫を亡くされた女性が当時の出来事について話しかけて来られました。みなさん常に互いにことばをかけあいながら支え合っておられます。人の思いに心をよせて耳を傾けることの大切さを感じました。



メンタルヘルスひとくちメモ

「困難な課題に挑戦してみよう！」というような『よいストレス』によって人は成長しますが、『悪いストレス（過剰なストレス）』が蓄積すると「疲れ果てて考えがまとまらない」「憂鬱な気分でする気がしない」等の反応が生じてきます。問題を一人で抱え込まず信頼できる人に相談することが大切です。総合教育センター教育相談部（申込先：mental@kyoto-be.ne.jp）や「教職員健康相談24」でも相談できます。※今回からメンタルヘルスについてシリーズをはじめます。

お知らせ

1 ショーケースをご覧ください。

ロビーのショーケースに府立学校の生徒作品を展示しています。

センターにお越しの際は是非ご覧ください。

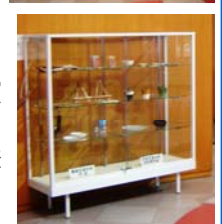
※年2回、作品を募集しています。



2 ITECで事前確認を！

センターの講座を受講される際には、事前に講座の内容についてセンターのホームページでご確認ください。

特に、携行品、開催場所などを確かめていただくようお願いします。「トップページ→研修講座→研修講座の一覧表」でご覧になれます。



<http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>

～センターからの一言～

芸術、スポーツ、読書、旅、いろいろな体験を通してリフレッシュ。ひいては子どもたちに還っていく。

